日本大学学長の業績評価報告書

（評価期間：令和４年７月１日～令和５年３月３１日）

令和５年４月２１日

学 校 法 人 日 本 大 学

日本大学学長候補者推薦委員会

日本大学学長の業績評価

日本大学学長候補者推薦委員会

日本大学学長候補者推薦委員会（以下「本委員会」という）は，学校法人日本大学役員規程及び日本大学学長選出規則に基づき，酒井健夫学長の令和４年度業績評価を次のとおり実施した。

１　業績評価の実施方法等

学長の業績評価は，年度に一度，その職務遂行について，本委員会の委員が評価者となり実施することが規定されている。実施にあたっては，学長に対して，あらかじめ理事会で定めた評価項目及びその他の特記事項に関する実績報告書の提出を求め，その妥当性と内容について評価を行った。

学校法人日本大学理事会が定めた学長の評価項目は，次の８項目である。

【学長の評価項目】

① 学生主体の学びの確立
② 全学的な教学マネジメントの確立
③ 学位プログラムとしての大学院教育の確立
④ 付属校と大学との連携・接続及び付属校教育の推進
⑤ 学術，文化，スポーツを介した人材育成とそれに基づいた地域社会への貢献
⑥ 持続可能な社会の実現に向けた研究推進
⑦ 多様性（ダイバーシティ）を尊重した施策の展開及び社会との関係構築
⑧ 理事長と協力し，透明性ある学校経営を目指す

この評価項目に対して，本委員会の委員は，学長から提出された実績報告書及びその実績報告書に基づいた学長自身によるプレゼンテーションを受け，評価を実施した。

評価項目（８項目）に対する評価については，次の６段階評価とした。

「Ａ」高く評価できる
「Ｂ」評価できる
「Ｃ」どちらともいえない（Ａ，Ｂ，Ｄ，Ｅどちらともいえない）
「Ｄ」あまり評価できない
「Ｅ」評価できない
「Ｆ」判断できない（知見がないので判断できない）

さらに，総合評価として，次の５段階評価を実施した。
「A」高く評価できる
「B」評価できる
「C」どちらともいえない（A，B，D，Eどちらともいえない）
「D」あまり評価できない
「E」評価できない

評価方法であるが，添付（参考資料）の評価シートをもとに上記のとおり，評価項目（８項目）に対しては６段階評価，総合評価に対しては５段階評価を実施した。その際，段階評価だけではなく，広くコメントを求めるため，評価シート内に評価コメント欄及び自由記述欄を設けることとした。

令和４年度の評価期間は，令和４年７月１日から令和５年３月３１日までの９か月間であるが，学長自身が作成した実績報告書は，就任日の令和４年７月１日から令和５年２月２８日まで８か月間の職務執行状況に基づくものである。

そのため，本委員会委員の評価コメントの中で,『学長就任８か月間』又は『学長就任９か月間』という表現が混在しているが，これは，評価を実施する前に実績報告の対象期間は８か月間とすることを，本委員会内で周知徹底できていなかったことによるものである。

今回の評価においては，評価コメント欄及び自由記述欄に学長に対する要望，提言が盛り込まれている。これらは次年度以降，ＰＤＣＡサイクルを回すために，大変有効なものになると思料する。特に自由記述欄に記載された内容は，評価項目に直接関係ない内容が散見されるものの，貴重な意見として，教学運営に活用していただくため，全て学長にお渡しすることとする。

２　実績報告に基づく業績評価の結果

酒井学長の実績報告（プレゼンテーション）は，令和５年３月２９日開催の第５回学長候補者推薦委員会で行われた。各委員から提出された評価シートを集計した結果は，別紙のとおりである。

３　総合評価の結果

前項の集計結果（別紙）を総括し，令和５年４月２１日開催の第６回学長候補者推薦委員会で審議した結果，総合評価及び各項目評価の多くで「高く評価できる」と「評価できる」が過半数を占めたことから，酒井健夫学長の令和４年度業績は，**「評価できる」**と判定した。

４　付言

酒井健夫学長の令和４年度業績評価を行った結果，本委員会委員からは，実施時期，実施方法等を含め，様々な意見が寄せられた。

主な意見は次のとおり。

○　学校法人日本大学役員規程第９条（業務執行に係る評価）では，理事長及び学長の業務については，毎年度１回，その職務遂行について評価を受けなければならないと規定している。しかしながら，現在の酒井健夫学長及び林真理子理事長は令和４年７月１日就任だったため，年度内に評価を受ける場合，就任後，１年を経過していない８か月間の業績に対する業務評価となり，判断が難しい評価項目もあった。

○　評価を実施するにあたって，評価項目の選定，評価方法，評価基準等，評価に関する具体的な内容は，規定化すべきである。

○　年度内に評価を実施することで，評価される学長及び評価する学長候補者推薦委員会委員ともに，タイトなスケジュールで実施せざるを得ない状況であったため，スケジュールに余裕を持つべきである。

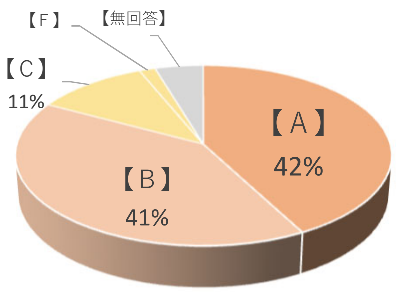
○　規定上，毎年度評価することになっているが，就任１年目の評価は無理が生じると感じたので，例えば，就任２年目の終わりに「中間評価」，「最終評価」を任期４年目に入ってから任期満了前までに実施する形式を検討してはどうか。

○　学長及び理事長の業務執行に係る評価を行うためには，私立大学の自主性と多様性に基づくガバナンスの強化と健全性の向上を図るための指針となる，日本私立大学連盟「私立大学ガバナンス・コード」をもっと意識して「日本大学中期計画」を策定すべきである。そのうえで「日本大学中期計画（教学に関する基本方針，管理運営の基本方針）」とリンクした評価制度の仕組みを考える必要があると思料する。未来につながる仕組みを構築してほしい。

以上のような意見があり，本委員会としては，次年度の評価に向けて，上記内容を改善すべき事項として捉え，鋭意検討する所存である。

以　　上

【　１　学生主体の学びの確立　】



【A】	高く評価できる	(27)
【B】	評価できる	(26)
【C】	どちらともいえない	(7)
【D】	あまり評価できない	(0)
【E】	評価できない	(0)
【F】	判断できない	(1)
【無回答】		(3)
		合計 64

評価のコメント

【A】又は【B】とした主なコメント

〇学長直属の機関として教学推進センター，教学推進オフィス，教学ＤＸ戦略委員会の設置などにより，施策の具体的進展が見られ，高く評価できる。

〇教学に関する基本方針の見直し・修正を行い，令和4年9月に「日本大学ルネサンス計画の実践」として教育・研究の基本方針を示している。学生主体の学びの確立の具体的目標として，一人ひとりの学生に即したオーダーメイド型の教育の充実を掲げ，令和4年10月に学長直属の機関として教学推進センターを設置し，全学的な視点で教学事項の検討を行っている。

〇大変高く評価できる。日本大学ルネサンス計画は，特徴ある取り組みや研究，学びのあり方に光を当てるという意味において，学生主体という本来の大学のあり方に光を充てることを推進ためのキーワードとして分かりやすく，教職員が目指しやすいものである。

〇公約であった学生一人ひとりのオーダーメイド型サポートに有用な施策として全学共通のプラットフォーム（LMS,ポートフォリオ及び教務システム）の導入を進めており，全学的な学生の学びの支援体制を進めていることは，就任後間もない中で高く評価される。また，「学長ブログ」を通じて寄せられた，個々の学生がかかえる問題に速やかに対応されたことは評価される。

〇10項目にわたる施策を検討されていることは高く評価できる。しかし，就任間もないこともあり，残念ながら，これから効果があらわれるものばかりである。来年度以降，各項目の進捗状況を確認させていただきたい。

〇就任約半年ではあるが，いずれも着手開始している。

〇全学共通科目「自主創造の基礎」における「日本大学ワールド・カフェ」視察など，学びの現場に強い関心を示して頂いているのは心強い。コロナ禍の制約がとりはらわれようとしている今，相互履修の質的量的強化など，標ぼうするオーダーメード型教育の確立に向けてリーダーシップを発揮されたい。

〇多様な学生に対する支援の促進について，学部長への意見フォームへの意見集約や学生FD CHAmmiTの実施など学生の声を聞く機会を増やし，イメージ向上に貢献した。

【C】とした主なコメント

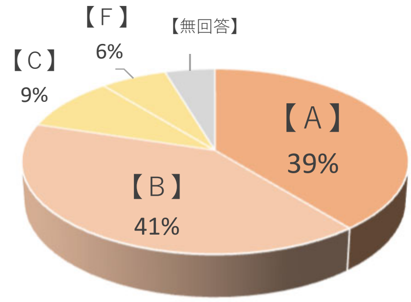
〇どちらともいえない。まだ具体的な形が見えていない。

〇学生が安心して学べる環境整備強化に期待する。

【F】としたコメント

〇方針や計画，委員会の設置，今後の課題や今後に必要な施策の提言等の段階であり，また，学長が主導した業績か否かが定かでないため，これらだけの情報をもってしては，学長の業績を判断できない。

【　２　全学的な教学マネジメントの確立　】



【A】	高く評価できる	(25)
【B】	評価できる	(26)
【C】	どちらともいえない	(6)
【D】	あまり評価できない	(0)
【E】	評価できない	(0)
【F】	判断できない	(4)
【無回答】		(3)
		合計 64

評価のコメント

【A】又は【B】とした主なコメント

〇教学IRの推進による教学データの収集・分析，学部及び短期大学部学生を対象とした外部アセスメント・テストの導入等，大学基準協会の認証評価受審に向けての積極的な取り組みについて高く評価できる。

〇「データ」に基づく大学教育の推進を目指し活動している。

〇各事案は中長期的な計画であるが，現時点にて今後の方針及び内容を明確にしたことを評価する。

〇高く評価できる。日本大学の教学的ヴィジョンとなる方向性を導くものとなっている。あとは実行あるのみ。学部間の差はあるが，N.グランドデザインをベースにその差を武器に変えるヴィジョンの共有が大切である。

〇教育の質保証の重要性に鑑みて諸施策が作成され，それぞれ着手，推進している点は評価できる。ただし，その成果を評価するためには教育現場での具現化が必要である。今後は更にスピード感をもって取り組むべきであ

〇大学基準協会の不適合を令和6年度の大学認証評価に向けての改善していくため，「大学運営に関する改善を推進したい，教学DXの取り組みを推進しよう」という強いリーダーシップを感じる。

〇教学ＤＸ戦略委員会の設置や教学推進センター及び教学推進オフィスを設置し，教育の質向上を持続させるため，学部等が行っている教育について検証・評価する体制を整えた。

【C】とした主なコメント

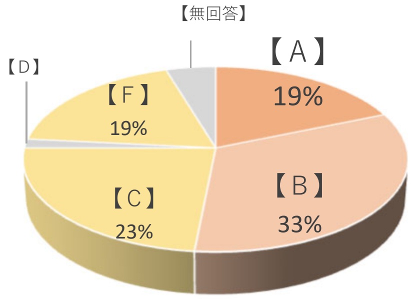
〇「教学に関する基本方針」を修正し，これに基づく全学的教学マネジメントに取り組むという基本姿勢には評価をしたい。しかし，所信表明にあった「経営より教学を優先」という姿勢が未だはっきりと現れているとは言えない。各部科校の教職員に学長・副学長らの考えが伝わっているとは言い切れない。今後，部科校との対話を進め，多様な意見に耳を傾けてもらえることを期待している。これは全学的教学マネジメントを機能するのに不可欠である。

〇自己点検・評価結果やIRデータの収集整備，監査情報の収集並びにGPSアカデミックの導入など，令和5年度以降に反映される諸策と捉え，次年度の展開を待ちたい。

【F】とした主なコメント

〇アセスメントテストの導入に関しては，過年度からの計画と推測されるため，今回の業務評価からは除外した。質保証の改善など，計画段階にあり，今後の目標を述べられていたため現時点では判断できないとした。

【 ３ 学位プログラムとしての大学院教育の確立 】



【A】	高く評価できる	(12)
【B】	評価できる	(21)
【C】	どちらともいえない	(15)
【D】	あまり評価できない	(1)
【E】	評価できない	(0)
【F】	判断できない	(12)
【無回答】		(3)
		合計 64

評価のコメント

【A】又は【B】とした主なコメント

〇大学院研究科の新設，司法試験の合格者数増加等，既に実績を残しているが，これらは酒井学長の就任前からの取り組みの結果である。引き続き，既存の研究科を含めた大学院教育の充実や，国家試験に係る合格率の向上等に取り組むことが期待される。また，教学の基本方針を改訂し，その実効性を高めるため中期計画の修正をも行ったことは高く評価できる。

〇教学に関する基本方針において学部と大学院教育の連携強化ならびに大学院生への修学上の支援の推進を掲げ，大学院教育の強化を図ろうとしている。
〇令和5年度の予算編成方針において「大学院の充実」を掲げ，リカレント・リスキリング教育を含めた大学院教育の充実を提言している。

〇これまで大学院教育の確立に関しては，基礎となる学部に施策を促す方向であったが，「教学に関する基本方針」を改訂し，具体的項目を掲げ中期計画を修正したことは評価される。

〇大学院のさらなる充実に向け，令和５年度の予算編成基本方針に具体的な取り組みについて明示し，改革の姿勢を鮮明にしている。

〇項目１と同様，DX戦略への試みや学びの環境支援の取り組み等，今後の展開が感じられる。

【C】とした主なコメント
〇中長期的課題であるため，現時点での評価は難しい。

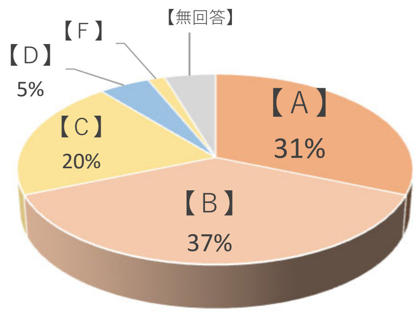
〇就任から一年も経過しておらず，短期間の中では学部教育と大学院教育の連携など，大学院教育の推進にまでは着手できていない状況である。

〇新たな研究科が新設されたことは評価することが出来るが，それ以外に今後の研究体制や環境設備に付いて，学部に対しての具体的な説明は十分にされておらず，具体的な内容について説明を行う様にすることが重要であると考える。

【F】とした主なコメント
〇令和4年9月に「教学に関する基本方針」を改訂し，これ基づき中期計画を修正し，そして具体的な施策を令和5年度予算に反映させているとされている。しかし中期計画・予算案の承認は学長業績の評価期間外となっており，そのため今回は評価する情報が不足している。今回は，計画されている具体的な施策が大学院教育の充実につながることを期待したい。

〇学長自らが着手して取り組んだ事項の実績が少なくFとした。就任からの期間が短いことにも起因している。

【　4　付属校と大学との連携・接続及び付属校教育の推進　】



【A】 高く評価できる (20)
【B】 評価できる (24)
【C】 どちらともいえない (13)
【D】 あまり評価できない (3)
【E】 評価できない (0)
【F】 判断できない (1)
【無回答】 (3)
合計 64

評価のコメント

【A】又は【B】とした主なコメント

○学長直下に設置された部科校連携推進委員会において，付属高校と大学の連携状況を調査を進めている。また，付属高校における教育の質を担保するため，付属高校非常勤講師の雇用および給与体制の見直しを行うなど，適切な対応により教育力向上を推進している。

○高大連携は、極めて重要な項目であり、学長の連携推進方針により、優秀な付属校生が希望の学部に入ることができ，日本大学に対する魅力が増していると言える。これは，令和4年度の高校入試において，多くの付属校の受験者数の増大からみても明らかである。

○付属校との連携・接続については近年，徐々に強化されていると実感する。本学のスケールメリットと，図らずもコロナ禍により各付属校で飛躍的に整備・確立されたオンライン環境を駆使すれば，学部や付属の壁を越えた連携・接続教育ができるのではないかと思われる。今回報告された基本方針とそれに向けた施策は，大変期待できるものであり，高く評価するものである。

○一部の学部が実践している高大連携のロールモデルについてのヒアリングを行い，全学に展開するよう働きかけている点，理事会のみならず本部の各種委員会に付属高校長を参画させ，多様な側面から高大連携推進を促している点は評価できる。

【C】とした主なコメント

○付属校に関する内容において掲げられた7つの項目については，以前から言われている内容と同様であり，新規かつ斬新な提案ではない。部科校連携推進委員会の設置が挙げられる中でどのような中間答申が出されるのか楽しみである。

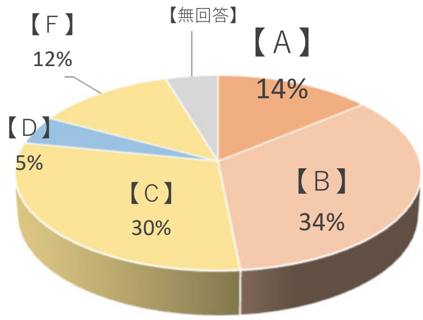
○具体的な内容について，学部に対して明確で具体的な説明は未だされておらず，今後それを実行される必要があると考える。

【D】とした主なコメント

○18歳人口の減少による入学志願者数の減少に伴い，付属高等学校との連携は，重要課題の一つと考えているが，現段階では各学部との高大連携に委ねられている部分が大きいように思う。大学として必要かつ十分な取組を迅速に行う必要があるのではないかと思う。

○少子化が進む中，付属高校との連携は重要事項と考える。迅速かつ十分な対応が必要と思われるが，未だ取り組みが十分ではない点は残念である。

【　5　学術，文化，スポーツを介した人材育成とそれに基づいた地域社会への貢献　】



【A】	高く評価できる	(9)
【B】	評価できる	(22)
【C】	どちらともいえない	(19)
【D】	あまり評価できない	(3)
【E】	評価できない	(0)
【F】	判断できない	(8)
【無回答】		(3)
	合計	64

評価のコメント

【A】又は【B】とした主なコメント

〇高く評価できる。今や地域貢献は必須であり，特徴的な教育プログラムとしても学術，文化，スポーツを介した地域社会への貢献が，日本大学のイメージを変えると考える。

〇各競技部においてSDGｓを意識した社会貢献活動を通じて，自主性，連帯感，コミュニケーションなどの醸成を図るものとして，競技部研修会等で部独自の社会貢献活動を計画し実行するよう依頼したこと。また，学生ボランティア活動の推進体制に係る検討を行う予定であることは評価される。

〇学生ボランティアの推進を図り人間力の向上させ，社会貢献に繋げるためのボランティアセンターの設置やサポート体制に向けた発言に意欲が感じられる。

〇新型コロナウイルス感染症の影響もあり，多くの活動がストップしてしまった面は否めない。取り組みに関する意識は評価できるので今後の活動に期待する。

【C】とした主なコメント

〇新型コロナウイルスの影響で活動が制限されていたが，今後の取扱い緩和に伴い，学術・文化・スポーツの面でも教育活動も活発化するものと考えられる。大学と社会との関係性を構築すべく，SDGｓを意識した社会貢献活動及びボランティア活動を活性化させ，地域社会に貢献する環境を整えていく方針を示している。

〇部活動主体による地域活動についてその限界と問題点を把握し，解決の方向性を示すと共にボランティアセンターの設置を目指している点を評価するが，実際に動き出すかが疑問のためどちらともいえない。

〇地域社会への貢献は，部科校ごとには活発に行われているが，大学としての方針や状況の把握が不十分であると思われるので，整備を進めていただきたい。また，今後は大学としてのボランティア活動推進体制について，検討を進めるとのことで，期待したい。

〇コロナ禍の影響もあり止むを得ないが，具体的進展があったようには感じられない。

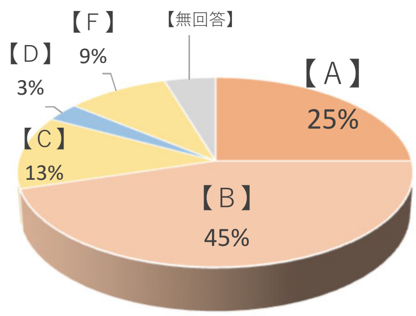
【D】とした主なコメント

〇現段階で活動実績が見えない。

【F】とした主なコメント

〇コロナ禍の影響により学生ボランティア活動を推奨，推進することは未だ難しく，現時点では判断できない。

【　6　持続可能な社会の実現に向けた研究推進　】



【A】	高く評価できる	(16)
【B】	評価できる	(29)
【C】	どちらともいえない	(8)
【D】	あまり評価できない	(2)
【E】	評価できない	(0)
【F】	判断できない	(6)
【無回答】		(3)
	合計	64

評価のコメント

【A】又は【B】とした主なコメント

○「教学に関する基本方針」において，「持続可能な開発目標（SDGｓ）の達成に向けた研究の推進」掲げ，令和４年度学術研究助成金「独創的・先駆的研究」の趣旨・目的にこれを加え，新規に採択課題の審査を実施し，推進するための積極的な支援を行ったことは評価される。

○令和４年度学術研究助成金「独創的・先駆的研究」の趣旨・目的に「持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた研究の推進」を加え，審査の評価要素にSDGsに関する項目を新規導入したこと。SDGsプロジェクト推進専門委員会の設置，大学による研究組織への包括的な支援と，大学院，学部，附属研究所に向けた間接的な支援を図り，本学の多様性を生かした多角的な研究成果と知見を獲得し，研究成果を学部発信し，大学ブランドイメージの向上を図る等，高く評価する。

○本学は16学部と85学科，大学院21研究科，短期大学部，通信教育部まで擁する総合大学である。学際化が叫ばれる昨今，独創的，先駆的研究の開拓は本学のお家芸となり得るものと考える。また，研究成果を積極的に外部発信していくという方針は今後の本学のブランドイメージの向上にもつながるものであり，高く評価できる。

○本項目について，具体的に成果が表れているとは言えないが，SDGsの達成に向けた研究の推進として，SDGsプロジェクト推進専門委員会の設置等の取り組みについて評価できる。

○自然科学・社会科学・人文科学の分野を横断した「総合知」による社会実装研究の推進を表明し，学内研究の活性化を図ろうとしている点は評価できる。

○ＳＤＧｓプロジェクト推進専門委員会の設置などの動きは評価できるものの，その周知や将来の構想などの具体性が見えず，次年度以降の動きに注視したい。

○複数学部の教員が参加する「災害研究ソサイエティ」のように，サステナブルでレジリエントな社会の創造を志向する学部横断的な取り組みが芽生えており，総合大学の研究力を再体系化する様々な切り口の活動が展開していくことが求められる。

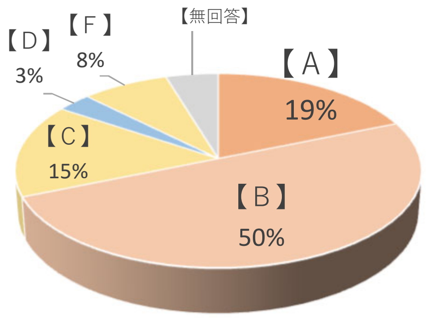
【C】とした主なコメント

○令和5年度のSDGs の達成（開発目標），独創的・先駆的な研究分野の開拓を分かりやすく広報いただきたい。

○SDGsは社会科学と人文科学並びに自然科学が融合できる一つの旗印であるが，すでに多くの大学が取り組んでおり，ニッチを探す必要があり，新しく設置された推進委員会次第である。

○コロナ禍の影響もあり止むを得ないが，具体的進展があったようには感じられない。

【７ 多様性(ダイバーシティ)を尊重した施策の展開及び社会との関係構築】



【A】	高く評価できる	(12)
【B】	評価できる	(32)
【C】	どちらともいえない	(10)
【D】	あまり評価できない	(2)
【E】	評価できない	(0)
【F】	判断できない	(5)
【無回答】		(3)
	合計	64

評価のコメント

【A】又は【B】とした主なコメント

○今後，学生，生徒，児童のみならず，保護者，教職員等も含め，様々な個性をもった人々がお互いを認め合う場所にしていこうとする姿勢が伺える。特にダイバーシティ推進委員会は従来にはない諮問機関であり，他の大学には出来ない規模の様々な多様性に対応できる組織作りに向けた活動をしてくれるものと期待する。

○令和5年1月10日に理事長及び学長の諮問機関としてダイバーシティ推進委員会を設置している。多様性のある人材の個性を尊重し，新たなる価値感に対応することで本学の質向上に資することを目的としており，画一的・閉鎖的であった体質を変えようとしている。また，今後の男女参画整備体制の構築が期待される。

○ダイバーシティ推進委員会を新設してジェンダーバランスなどの改善を行ったが，その効果は本部役員（理事・評議員）にとどまっているように思う。今後，教職員にも同じ方向を目指すような施策が必要と考える。

○理事会の女性比率は高くなったものの，次世代の女性が育っていない現状がある。具体策などが示されることを期待したい。

○ダイバーシティ推進宣言の制定にまでは至っていないが，その準備は着実である。職員等採用等に関して，公平性，透明性を持たせることにより，結果としてのダイバーシティにつながっていると思う。

○新役員体制では女性比率，外部比率をいずれも高めており，理事24名に占める学外者は12名，女性は8名である。また，評議員は49名中，学外者25名，このうち女性14名である。組織変革を目的とした日本大学ダイバーシティ推進委員会を設置し，令和5年度以降のダイバーシティ推進が期待される。

【C】とした主なコメント

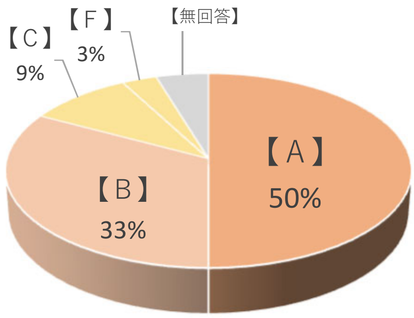
○多様性を尊重した施策への取り組みは，日本大学の旧弊を刷新するものと期待できる一方，多様性に取り組むことを自己目的化しているにとどまっているように感じられる。

○ジェンダーバランスや多様性の尊重は，人材育成・登用に時間を要する施策であるため，今後の進捗状況を確認していきたい。

【D】とした主なコメント

○ダイバーシティの重要性を認識されていることは分かるが，具体的な目標としては十分とはいえず，具体的な取り組みとしても，これからという状況かと思える。

【 8 理事長と協力し，透明性ある学校経営を目指す 】



【A】	高く評価できる	(32)
【B】	評価できる	(21)
【C】	どちらともいえない	(6)
【D】	あまり評価できない	(0)
【E】	評価できない	(0)
【F】	判断できない	(2)
【無回答】		(3)
		合計 64

評価のコメント

【A】又は【B】とした主なコメント

〇日本大学未来構想推進体制ならびに未来構想推進専門部会（5部会）を設置し，①就学人口減少を踏まえた適正規模に関する事項，②学問領域同一の複数学部・学科に関する事項，③教養教育及び教職等の資格課程教育の在り方及び運用方法に関する事項，④大学院の充実に関する事項，⑤学部間の壁を越えた施設等の共同利用に関する事項，⑥付属校の課題に関する事項等を検討事項として専門部会での検討を促した。

〇常務理事会，理事会などの議事について透明性を高めた。

〇特別調査委員会を設置して，一連の不祥事以外も含めた調査を行い，本学に対する不信感を払しょくすべく努力している。

〇学長および理事長の企画立案・施策実現を担う秘書室を設置した。また，前体制の第三者委員会とは別に，理事長提案で外部弁護士・公認会計士で構成される特別調査委員会を設置した。学校法人における不適切案件の有無を洗い出し，文部科学省記者クラブにおいて記者レクチャーを実施した。令和5年度以降，更に透明性のある大学運営が期待される。

〇理事長と共に新聞・雑誌等のインタビューや原稿の執筆依頼等に対応し，本学に関する情報を社会に向けて適切に発信していると思う。透明性ある学校運営に全力を尽くされており，真摯な取り組みは，社会からも評価されているものと思う。

〇本学の信頼回復と再生復興に対する意欲・姿勢が対外的に認められつつある。

〇理事長と学長が連携して改革を進めている姿がよくわかる。

〇理事会の議事録（要旨）をホームページに掲載することにより，透明性のある大学運営を行っている。委員会等においても積極的に外部委員・女性の構成員を増やすなどして活発な議論を導いており，風通しの良い組織への改革を実行している。

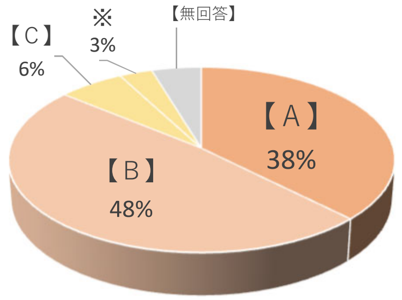
【C】とした主なコメント

〇様々な改善案が検討されているとは考えられるが，それが現場である学部にまでは十分に説明されておらず，日本大学全体として改善に向け新たな透明性のある学校経営が実践されているとは言いがたい。

〇板橋病院建替事業は，丁寧かつ迅速に推進することを期待したい。

〇今後も教育と管理の両面から教職員が一丸となった法人運営お願いしたい。

【　総合評価　】



【A】	高く評価できる	(24)
【B】	評価できる	(31)
【C】	どちらともいえない	(4)
【D】	あまり評価できない	(0)
【E】	評価できない	(0)
※	判断できない (注1)	(2)
【無回答】		(3)
	合計	64

(注1) 選択肢にはないが，どうしても判断できないとの理由による。

評価のコメント

【A】又は【B】とした主なコメント

〇大学の運営・改革に積極的に取り組み，学長としての責務を十分果たされており，全体として高く評価することができる。早急に成果が表れない取り組みについては，今後，早い段階で具体化するように取り組んでいただきたい。また，今後の課題に向けて強いリーダーシップを発揮していただきたいと思う。

〇高く評価できる。令和5年度入試で前年度比105％の志願者を獲得し，本学の社会的評価の低下に歯止めがかかったのは，酒井学長のリーダーシップのもと断行されている教学諸改革の成果と考えられる。諸施策に着手された段階というのがおそらく本年度の実態であり，施策の貫徹とその成果が目に見えるかたちで次期以降あらわれることが大いに期待される。

〇各項目の取り組みについて，具体的施策に入るための準備段階である組織の整備，委員会の設置等を積極的に整備していることは，評価に値する。まだ，就任して9か月のため各種施策が本格的に動き出すのは，令和5年度以降となると思われるので，本格的な評価は次年度以降となるのはやむを得ないと思われる。

〇令和４年7月からの9か月足らずで，日本大学の従来体制の改革を意識し，理事会・評議員会の一新ならびに多くの組織改革を行った。新たに設置した委員会などでは目に見えるかたちでの成果は得られていないものの，教職員の意識改革にはつながっているものと考えられる。

〇特に内部質保証については，学部間格差もあろうかと思うが，学部ごとに改善努力が重ねられていると目される。また，地域連携についても学部連携を含めた包括連携協定の締結や産官学での社会実装プロジェクトの取組が始まっており，大学本部がこれら取組の情報集約を行う必要があろう。これらの点を含めて，大学全体として日本大学ルネサンス計画を意識して教職員個々の意識改革が進んできていることが認識でき，学長のガバナンスが十分に浸透しているものと判断できる。

〇学長就任から時間をかけずに，教学推進センターの構築，教学IRのマネジメント体制の構築，大学認証評価受審に向けました外部アセスメントテストの全学的導入，部科校連携推進委員会の設置，具体的な目標設定を行った上での学内研究プロジェクトの採択等にリーダーシップをもって着手されたことは高く評価する。

〇わずか8か月と言う短い期間において，説明責任を適切に果たし，本学の透明性を高め，多様性を確保して教学優先の大学への転換を推進されている。また，「ルネサンス計画」において，教学における「個」の尊重として学生一人ひとりに合わせた指導（オーダーメイド型サポート）の推進は，「自主創造」の実現に繋がるものであり，高く評価できると思う。しかし，一方で，取り組みが遅れている項目もある。

【C】とした主なコメント

〇就任後様々な施策を実施してその実績に対しての評価を受けるには，今回の評価までの時間は短すぎていた。

学長の業績評価シート

参　考

A：高く評価できる
B：評価できる
C：どちらともいえない（A，B，D，E どちらともいえない）
D：あまり評価できない
E：評価できない
F：判断できない　（知見がないので，判断できない）

	業績評価項目	評価	評価コメント	自由記述
1	学生主体の学びの確立	A		
		B		
		C		
		D		
		E		
		F		

学長の業績評価シート

A：高く評価できる
B：評価できる
C：どちらともいえない（A，B，D，E どちらともいえない）
D：あまり評価できない
E：評価できない
F：判断できない　（知見がないので，判断できない）

	業績評価項目	評価	評価コメント	自由記述
2	全学的な教学マネジメントの確立	A		
		B		
		C		
		D		
		E		
		F		

学長の業績評価シート

A: 高く評価できる
B: 評価できる
C: どちらともいえない（A, B, D, E どちらともいえない）
D: あまり評価できない
E: 評価できない
F: 判断できない　（知見がないので，判断できない）

	業績評価項目	評価	評価コメント	自由記述
3	学位プログラムとしての 大学院教育の確立	A		
		B		
		C		
		D		
		E		
		F		

学長の業績評価シート

A: 高く評価できる
B: 評価できる
C: どちらともいえない（A, B, D, E どちらともいえない）
D: あまり評価できない
E: 評価できない
F: 判断できない　（知見がないので，判断できない）

	業績評価項目	評価	評価コメント	自由記述
4	付属校と大学との連携・接続 及び付属校教育の推進	A		
		B		
		C		
		D		
		E		
		F		

学長の業績評価シート

A：高く評価できる
B：評価できる
C：どちらともいえない（A，B，D，E どちらともいえない）
D：あまり評価できない
E：評価できない
F：判断できない　（知見がないので，判断できない）

	業績評価項目	評価	評価コメント	自由記述
5	学術，文化，スポーツを介した人材育成とそれに基づいた地域社会への貢献	A		
		B		
		C		
		D		
		E		
		F		

学長の業績評価シート

A：高く評価できる
B：評価できる
C：どちらともいえない（A，B，D，E どちらともいえない）
D：あまり評価できない
E：評価できない
F：判断できない　（知見がないので，判断できない）

	業績評価項目	評価	評価コメント	自由記述
6	持続可能な社会の実現に向けた研究推進	A		
		B		
		C		
		D		
		E		
		F		

学長の業績評価シート

A：高く評価できる
B：評価できる
C：どちらともいえない（A，B，D，E どちらともいえない）
D：あまり評価できない
E：評価できない
F：判断できない　（知見がないので，判断できない）

	業績評価項目	評価	評価コメント	自由記述
7	多様性（ダイバーシティ）を尊重した施策の展開及び社会との関係構築	A		
		B		
		C		
		D		
		E		
		F		

学長の業績評価シート

A：高く評価できる
B：評価できる
C：どちらともいえない（A，B，D，E どちらともいえない）
D：あまり評価できない
E：評価できない
F：判断できない　（知見がないので，判断できない）

	業績評価項目	評価	評価コメント	自由記述
8	理事長と協力し，透明性ある学校経営を目指す	A		
		B		
		C		
		D		
		E		
		F		

学長の業績評価シート

A：高く評価できる
B：評価できる
C：どちらともいえない（A，B，D，E どちらともいえない）
D：あまり評価できない
E：評価できない

氏名：

	評価	自由記述
総合評価	A	
	B	
	C	
	D	
	E	

学長の業績評価シート

【提出締切日】 令和5年3月31日（金）午後5時

【提　出　先】 日本大学本部総務課